

立命館大学法学部 同窓会誌

新しい時代を迎えた法学部—就任のあいさつにかえて

立命館大学法学部長 吉村 良一

2004年4月から、法学部長をつとめさせていただきます吉村です。法学部同窓会の皆様には、日頃から、法学部に対し、格別のご高配をいただき、感謝しております。

さて、この4月から、いよいよ法科大学院が立ち上がります。本誌の別項に詳細の報告がありますように、おかげさまで、入試も無事終わり、新しい時代の法曹をめざす気鋭の諸君の入学を迎えることが出来ました。法科大学院の開設は、法曹養成の仕組みの大きな転換をもたらしますが、同時に、それは、法学部教育にも大きな影響をもたらします。法学部は、いわば新しい時代を迎えることになるわけです。今後の法学部教育にとって、社会の様々な分野に法的な判断能力を有する人材を送り出すとともに、法科大学院（とりわけ2年修了の「既習者コース」）に進学する諸君の学部段階での法学教育を行うことが課題となります。

立命館大学法学部は、このような課題に 대응するために、2004年度から、専攻制の再編を含む大きな改革を実施します。ここでは、専門力量を基礎からしっかり身につけることのできる専門教育カリキュラム、幅広い教養と豊かな人間性を涵養する仕組み、さらには、グローバル化した社会で活躍する外国語の運用力と国際理解を深める教育システムの確立をめざしています。また、法科大学院と法学研究科（2004年度から、別項にあるように、専修コースを、「ビジネス・ロー」「シヴィック・カヴァナンス」「法政リサーチ」の3コースに再編します）との連携により、高度の専門性を追求する仕組みも導入します。

社会の高度化と社会関係の複雑化により、私たちの生活において法や裁判の果たす役割が増大してきています。このよ



うな、社会のいわゆる「法化」にどう対応していくのが今日の法学部に問われています。法科大学院の開設、法学部教育の改革、大学院法学研究科の改革によって、私たちは、この課題に正面から応え、新しい時代の法学部を作って行きたいと考えています。同窓会会員の皆様の、これまでも増してのご支援ご協力を、お願いいたします。

最後になりましたが、この3月に卒業された皆様には、法学部同窓会への入会を呼びかけたいと思います。また、この6月には、下記のように、第5回（2004年度）の立命館大学法学部同窓会の総会・懇親会が開催されます。法科大学院の開設を記念し、新しい時代の法学部に向けた想いを語り合う場になればと思います。

是非、多くの会員の皆様に参加されることを期待しています。

2004年度（第5回）法学部同窓会・懇親会

6月12日(土)午後2時～立命館大学 存心館702号教室
記念講演：「阪神大震災を乗り越えて—市長時代の奮闘・思い—」
北村 春江氏(前芦屋市長、弁護士、昭和27年度修士卒)
総会・懇親会には、川本理事長(同窓会顧問)、名誉教授、吉村新学部長他、多数の教員も参加します。

◎参加申し込み締切日：6月3日(木)

◎申し込み方法：ハガキまたはEメールにて(6ページ参照)

*同窓会幹事会・総会のスケジュール

午後1時～同窓会幹事会 存心館702号
午後2時～総会/記念講演(約40分) 存心館702号
午後3時～懇親・交流会 (午後5時終了予定)
存心館地下食堂

懇親会費：6,000円 平成15年度卒業生は5,000円

*午前11時～希望者は西園寺記念会館(法科大学院棟)見学

◎学年歴の関係で当初の日(5/29)を変更させていただきます。

第4回法学部同窓会総会

法学部同窓会を東京虎ノ門で開催!!

法学部同窓会は、6月29日(日)午後2時から東京虎ノ門の「虎ノ門パストラル」で総会・記念講演会・懇親会を開催した。はじめて東京で行われる総会・記念講演の司会は竹濱修幹事(法学部教授)。総会では、冒頭羽賀孝会長('51年卒:丸大食品株式会社代表取締役)が開会挨拶。続いて上田寛法学部長(法学部同窓会顧問)が「法学部の現状と展望」として法学部教学の近況を報告した。続いて来賓挨拶に移り、学園を代表して川本八郎理事長(法学部同窓会顧問)、河原四郎立命館大学校友会会長にご挨拶を頂いた。続いて総会議事に移り、濱川事務局長('74年卒:U&F総合法律事務所)から2002年度活動報告また祝迫一事務幹事(法学部事務長)から同決算報告、古田義幸会計監査委員('75年卒:京都司法書士会会長)から同監査報告が行われ、これを承認。引き続き、2003年度活動方針、同予算案を採択して終了した。

このあと記念講演に移り、石井敏弘宇宙開発事業団副理事長('64年卒)が「日本の宇宙開発」と題して講演。総会は、赤木文生副会長(神戸ブルースカイ法律事務所)の閉会の辞で終了した。

会場を移して懇親会は、吉田美喜夫幹事(法学部教授)、豊田幹子幹事(甲南大学講師)の司会で行われ、高岡完治副会長('62年卒:財団法人あしたの日本を創る協会理事長、元国立公文書館館長)のご発声で高らかに乾杯。懇親に入っ

た。懇親会の中では、山花郁夫氏('89年卒:民主党副幹事長)市田忠義氏('67年卒:日本共産党書記局長)、川端義明氏('75年卒:NHK沖縄放送局長)、西田宗旦APU副学長('65年卒)、また多数ご参加頂いた名誉教授を代表して中井美雄名誉教授からご挨拶を頂き、市川正人法科大学院設置委員会事務局長(法学部教授)からは法科大学院設置申請を完了した旨の報告と法学部校友への有形無形の支援の要請が行われた。

最後は松岡正美名誉教授(元学生担当常務理事)のリードで校歌、また応援団OB木山秀一さん('81年卒)を交え応援歌を斉唱。中村義孝副会長(名誉教授、校友会本部総務委員)のご挨拶で参加者240名に及ぶ大交流懇親会は中締めとなった(校友会本部事務局志垣課長報告)。



記念講演 「日本の宇宙開発」(要旨)

宇宙開発事業団副理事長 石井 敏弘氏
(1964年法卒)

人工衛星の低軌道が地上300-1000キロ、静止軌道が赤道上空36000キロを24時間で一周しております。

通信・放送は静止軌道が多いのですが、宇宙に中継点が1点あればどこでも通信可能です。これが地上ではマイクロウェーブでも何十ヶ所も必要です。しかも地上の地震、台風などの影響も受けず、危機管理の視点からも強い。

気象衛星からは、地球観測、地形、雲、海面の温度、風や潮流が分かり、魚場探査も可能です。しかも面で観測できます。従来の測候所は点の観測です。

カーナビが普及しておりますが、人工衛星が3個あれば自分の位置を確かめることができます。

以上は人工衛星の位置を利用したのですが、将来は宇宙ステーションのように場の利用に進みます。宇宙では無重力で上下、重い軽い、対流もない。物が均一に混ざる。これを利用した材料をつくれます。落ちないので容器も不要で、異物混入がない純度の高い物質です。

さらに将来、多くの人が行くようになれば、文化も変わる。上の人、重く受け止めるという表現も変わるかもしれません。

あと何十億年もある太陽エネルギーは、地上より10倍くらいの効率で利用できます。小惑星の中には鉄やチタンを多く含むものがあります。地球の人口は増えつづけており、宇宙に活動空間を広げる必要があるわけです。

ところで、人工衛星は現在5500個あります。ロシア3000個、アメリカ1700個、日本は100個ほどです。GDP15%国家としては少ない。事業団はH2ロケットの失敗で世論の批判を賜りました。外国でも報道はされないが、10%くらいが失敗の確率です。損害保険会社も10-20%で見積もっていますが、そうなると500億円の衛星なら100億円の保険料が必要で、保険に入るより研究費に回すということになっております。

7回のうち2回失敗したH2ロケットは1個190億円かかりました。欧米では100億円くらいだということで、H2aを開発し、平成13年1号機以来5個成功しました。これは85億円です。

ひやっとすることは毎回あります。種子島の施設はかなり老朽化し、事前点検で応急措置が必ずある。ロケット、人工衛星はハイテクとローテクで成り立っています。ロケットは

秒速8-10kmで飛ぶ。水素のターボポンプは1秒で700回まわる。燃料の液体水素はマイナス253度、燃焼すると3300度になる。これに耐えなければならない。2トンの人工衛星打ち上げにロケットは300トンですが、250トンは酸素と水素の燃料です。軽量化技術も必要です。発射すると後から修理というわけに参りませんので、部品の点数をH2aでは25万点に減らし、信頼性を上げました。これは人工衛星自体にも同様にいえます。地上で作ったときは全く違う苛酷な環境で使われるので色々課題があります。

平成15年は、夏に情報収集衛星、冬には気象衛星ひまわり5号の後継機を上げる予定です。来年は技術試験衛星で大型アンテナを広げ、地上側のアンテナが小さくて済むようなものを打ち上げます。平成20年度くらいには、民間と共同で天

頂衛星を計画しています。赤道ではなく、北緯40度くらいの日本の真上に上げますと、高いビルや山の影響を受けなくなります。

今年の10月には、宇宙開発事業団、宇宙科学研究所、航空宇宙技術研究所が統合され、宇宙航空研究開発機構が発足致します。事業団の年間予算は平成15年度1400億円、30年余りの累積で3兆6000億円いただいています。アメリカはNASAと国防省の年間予算がそれくらいです。事業団の歴史は昭和44年にアメリカが月に人を降ろした後に始まったばかりであります。しかし、将来の宇宙開発に日本がかんでいく必要があります。組織の統合で大きな成果を上げたいと考えております。どうか皆様のご支援をお願い致します。

立命館大学法学部の最近の動き

1. 法学部2004年入試

立命館大学全体で受験者数が10万人を超え、法学部も1万人を超えました。これは、1996年以来、6年ぶりです。法学部は、一般に受験者数の上下の変動幅が小さく、従来、大きな変化は見られませんが、最近では、司法制度改革の一環としてわが国の法曹養成のあり方が問われ、法科大学院の創設が社会的に注目されたことが、受験者数増加の要因の一つであろうと思われまます。同時に、立命館大学法学部自体への注目度が益々大きくなってきていることが感じられます。

2. 法学部カリキュラム改革

2004年度からは、法科大学院創設後の法学部教育を構想し、新たなカリキュラムが実施されます。教養科目を系統的に履修する方途が導入され、専門教育は、セメスター制の下で、2単位科目を整理統合し、かなりの科目で4単位化することが行われ、将来の進路を見据えて、法曹進路プログラムや大学院進学プログラムなども導入されました。同時に、大学院との共同開講科目も拡充され、情報教育の高度化、小集団教育の改革なども大胆に行われました。新入生は、この新カリキュラムで勉学に励むこととなります。

3. 附属高校との連繫強化

現在、立命館高校（深草）、立命館宇治高校、立命館慶祥高校（北海道）の3附属高校があり、毎年、優秀な学生が入学してきています。司法試験に3回生や4回生で合格する成績を上げています。法学部では、附属高校向けに入学前の講座を開講し、法学部の教育に早くから親しみ、スムーズに大学教育に入れるよう配慮をしています。これは、附属高校との連繫を強化する中で生まれた制度の一つです。

4. 進路・就職

昨今の経済状況の中でも、法学部生は、進路・就職先でも健闘しています。大手・有力民間企業への進出も顕著です。従来より強い公務員の分野では、堅調です。ただ、司法試験の結果は、今年度9名の最終合格に終わり、残念な面を残しました。

5. 大学院法学研究科・東京講座

法学研究科の公開講座として「金融と法」を2003年4月から12月まで前期と後期に分けて、開講しました。講師陣には、首都圏の第一線で活躍中の有力者をお願いし、霞ヶ関の官庁街、有力企業や法曹界から活発な受講者を集め、極めて密度の濃い、水準の高い講義が展開されました。この講座は、大垣尚司・法学部教授（日本住宅ローン（株）社長）が主任となって運営され、金融財政事情研究会の後援も得て、大好評のうちに第一期を修了し、2004年4月からは第二期を開講しています。

6. 大学院法学研究科の改革

法科大学院の創設とともに、既存の法学研究科の改革も急務でした。大学院における法曹養成の課題は、法科大学院（正式名称は、大学院法務研究科）に引き継がれ、既存の法学研究科は、狭義の法曹ではなく、広義の法律関係専門職、たとえば、税理士、司法書士、弁理士、公務員、民間企業の法務担当者、研究者などを養成する課題を担うこととなりました。このため、大学院の履修コースが改革され、研究者養成の「研究コース」、民間企業や税理士などを指すための「ビジネス・ロー・コース」、公務員等を指す「シビック・ガバナンス・コース」、そして社会人などの研究意欲に沿う「法政リサーチ・コース」に再編成されて、カリキュラムも大きく変わりました。

7. 法学部叢書の刊行

法学部創立百周年の際にも公表されていた立命館大学法学部叢書が着々と発刊されています。吉村良一教授の『公害・環境私法の展開と今日的課題』（2002年8月 法律文化社）を第1号として、すでに8号まで毎年の刊行が続いています。これによって、立命館大学法学部・大学院法学研究科の研究力量が社会的に発揮されています。図書館、書店などで見かけられたら、是非手にとってご覧下さい。日頃のお仕事に役に立つものもあるかと思しますので、ご一読をお薦めします。

2004年度法学部役職・新任者のご紹介

法学部長は上田寛教授から吉村良一教授（民法）に交替します。副学部長は山本忠教授（社会保障法）、学生主事は石原浩澄教授（英語）、企画委員長は平野仁彦教授（法哲学）となり、大学院法学研究科長は、竹濱修教授から赤澤史朗教授（日本政治史）に交替し、研究科主事は宮井雅明教授（経済法）が継続です。なお、薬師寺公夫教授はAPU副学長に就任（任期3年）します。

《法学部および法科大学院専任教員》

学部長

吉村良一

吉田美喜夫★

労働法
民法

市川正人

〈教授〉

赤澤史朗	日本政治史
荒川重勝	民法
生田勝義★	司法
石田澄浩	英語
宇野木尚洋	中国語
大垣純司★	金融法
大平祐一	民法
鹿野菜穂子	民法
葛野尋之	刑法・刑事訴訟法
小堀眞裕	政治過程論
小山藤敬	民法
須藤陽	労働法
徐濱修★	行政法
竹治進	比較人権論
谷本圭雅	商法
出川信茂	ドイツ語
中島義和	民法
中西谷めぐみ	民事訴訟法
野口マリー	国際法
久岡康成★	憲法
平野仁彦★	政治学原論
堀雅晴	国際政治学
本田義一★	英語
三水憲人★※	刑法・刑事訴訟法
宮井雅明	法哲学
村上天	現代日本政治論
薬師寺公典★	刑法
安山幸二	税法
山本岩夫	行政政策
山本忠	経済法
吉岡公美子	行政学
	国際法
	行政法
	日本語
	英語
	社会保障法
	英語

〈助教授〉

岡野八代	政治思想史
小田美佐子◎	アジア法
倉田玲志	憲法
倉田直人	憲法
高橋直人	西洋法史
樋口康	商法
堀田秀吾	国際私法
正木宏長◎	英語
松尾剛◎	行政法
宮脇正晴	フランス語
望月雨◎	知的財産法
本山敦弘	税法
山田泰希◎	民法
山田希◎	民法
渡辺千原	民法

〈客員教授〉

園部逸夫	行政法
花岡浩二◎	生命保険事業法
美若晃伸	企業会計法
諸石光熙	企業法務
渡辺三彦	知的財産法

〈特別任用教授〉

川上勉	フランス語
中谷猛	政治思想史
中村義孝	西洋法史

〈外国語常勤講師〉

ALWYN SPIES	英語
MANFRED ROER	ドイツ語
ANALIA VITALE	スペイン語
洪潔清	中国語

法科大学院(法務研究科)専任教員

研究科長 市川正人

〈教授〉

生田勝義★

大川真純	夫★
大久保史正	治◎
岡本村野	生◎
北黒野功	久◎
小松陽一	郎◎
酒井善和	一◎
佐上谷篤	哉★
品竹恒好	修◎
田中立文	好◎
花林和江	子◎
段山口雅	久★
出宮周	平◎
二久岡康	成★
平井野仁	明◎
藤田井正	彦★
松宮孝	隆◎
松本克美	一★
三本木口	憲★
水森下本	弘◎
安山典夫	夫★
山名孝隆	男◎
山本忠雄	◎
吉田美喜	夫★
渡辺惺	之◎
和田真	一
吉川義	春

★印は法学部・法科大学院(法務研究科)の併任
 ◎印は新任
 ※は政策科学部より移籍



立命館大学法学部の思い出

川上 勉

この3月末日をもって定年退職する私に、同窓会誌へ執筆するようにとの依頼があり、たいへん光栄に思っている。私が法学部に着任したのは1972年だったから、在職32年になるが、この間ざっと2万数千名の卒業生を送り出した計算になる。もちろん、一教員として直接教えた学生はそのなかのごく一部に過ぎず、さらに卒業後もなんらかのかたちでつき合いがある人は、その中でもごくごく一部である。そんなことを思うと、教員としての仕事も些細なものだったと感じないわけでもない。

ところで、現在同窓会の活動を支えている人は社会で大いに活躍されている有能な人たちであるが、いま私が思い出すのは、まだ若くして急逝した有能な同窓会メンバーのことである。天野和夫先生の秘蔵っ子で法哲学の兼子義人君は、立命館法学部の生え抜きであり、1979年に法学部に就職

し、1992年3月に亡くなった。43歳の若さだった。もし彼が生きていれば、間違いなくいまは法学部教授会の中心的な存在として活躍していたことだろうと思う（人は勝手なもので、歴史にもしもということとは許されないといいながら、友人のこととなると平気で「もし彼が生きていたら」などと言う。）1980年に、彼が教職員組合の職場委員で、私は執行委員だった。二人で組合の話をしているうちに、いつしか研究のことに話題が移り、ドイツの法学者ケルゼンについてよく耳にした。私はフランスの作家アラゴンについて話し、いっしょにヨーロッパの30年代に関する共同研究をやろうと約束したのだったが、ついに実現しない夢で終わってしまった。

彼もまた間違いなくこの同窓会を支えているひとりだと思っている。

法科大学院開設にあたって

立命館大学大学院法務研究科（法科大学院）

研究科長 市川 正人

立命館大学は、「私立京都法政学校」から始まる100年の法学教育の歴史と伝統をもちつつ、常に改革を進め多彩な教育・研究資産をもつ総合大学として社会の最先端の課題に取り組んできました。

私たちは、こうした立命館大学の伝統と実績、総合性・多様性と進取の精神を受け継ぎ、「21世紀地球市民法曹」の養成を目指して立命館大学法科大学院を設立いたします。

この「21世紀地球市民法曹」とは、グローバルな視点と鋭い人権感覚を備え、さまざまな分野・専門領域において活動する法曹を意味します。グローバル化の進展によって、世界をフィールドに活躍する法曹が求められているだけでなく、地域に奉仕する法曹であっても、身近に起こる法的問題を地球規模の広がりの中でとらえ対応することが求められます。市民の立場に立って地球的視点で活動できる法曹こそ、今もっとも必要とされているのです。また、社会の法に対する需要が増大、多様化する21世紀においては、法曹は、国際取引、知的財産権、税、環境保護、人権擁護等々、なんらかの専門分野をもつ必要があるでしょう。さらに、今後は、企業や官庁において活躍する法曹も増えることでしょう。

立命館大学法科大学院では、こうした21世紀に求められる法曹像を「地球市民法曹」ととらえ、多様なバックグラウン

ドをもった学生が、各人のめざす「法曹像」を中軸に据えながら豊かな人間性と、鋭い人権感覚、幅広い教養と共に、グローバルな視点と高い専門性を身につけることができるような教育を行います。時代のニーズを的確に把握して、自由で競争的な環境の中、自分の持てる力を十二分に発揮しつつ、世界をリードしていく法曹を養成したいと考えています。

リニューアルされた西園寺記念会館において、3月15日竣工式も滞りなく行なわれました。法科大学院は法曹養成に特化したプロフェッショナルスクールであり、理論と実務との架橋を意識しながら、学生が高い専門性を身につけられるような教育を行っていきます。この日竣工した西園寺記念館（法科大学院棟）は、こうした教育に相応しい、双方向・多方向型の少人数教育に対応した講義室や、パソコン利用の授業や学生の自習に対応する情報演習室、模擬裁判も実施できるコート・ルーム、リーガルクリニックのための相談室等が特徴。また、全館に無線LANを配備し、教室でも自習室でも各種データベースへのアクセスが可能となるなど、最新鋭の設備も備えています。

あとは、4月意欲に燃える学生を迎えて開講を待つばかりです。6月の同窓会総会の折、是非見学においで下さい。

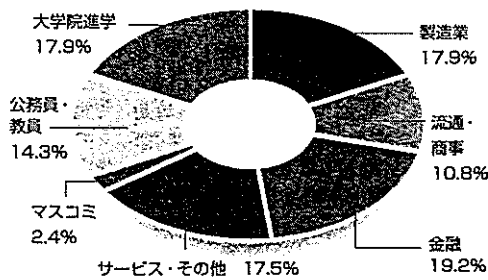
2003年度の卒業生進路

進路・就職

法曹や公務員への進出はめざましく、法的素養は企業からも高く評価されています。

立命館大学法学部の卒業生は、法曹界に加え、公務員分野への進出で例年高い実績をあげています。さらに、法学部で培われたリーガルマインドや、実社会で活用できる法の知識は、金融、メーカー、サービスなどをはじめとする一般企業でも高く評価されています。また、商事・流通、マスコミの分野へも、例年コンスタントな就職率を維持しています。

■業種別就職状況（2002年度法学部）



■2003年度の主な国家公務員試験の合格状況（含む、既卒）

試験種別	法学部	全学
国家公務員Ⅰ種	3名	33名
国家公務員Ⅱ種	53名	224名
裁判所事務官Ⅰ種		2名
裁判所事務官Ⅱ種		11名

2003年度法学部 主な内定先

●金融	住友金属工業	中部電力
日本銀行	オムロン	川鉄商事
東京三菱銀行	ローム	大丸
みずほフィナンシャルグループ	INAX	セブンイレブン・ジャパン
三井住友銀行	プロクター・アンド・ギャンブル	サークルケイ・ジャパン
UFJ銀行	ファー・イーストインク	日本トイざらス
三菱信託銀行	武田薬品工業	●サービス・マスコミ
住友信託銀行	カゴメ	西日本電信電話(NIT 西日本)
野村アセットマネジメント	森永製菓	日本テレコム
第一生命保険	積水ハウス	三菱地所
三井住友海上火災保険	大日本印刷	日本経済新聞社
野村證券	●運輸・電力・流通	びあ
日興コーディアル証券	西日本旅客鉄道	●公務員
大和証券	北海道旅客鉄道	国家公務員Ⅱ種
●製造	近畿日本鉄道	裁判所事務官
日本電気	京阪電気鉄道	地方公務員（上級職）
日立製作所	シンガポール航空	国税専門官
富士通		

同窓会への加入 財政強化のため会費納入と寄付を呼びかけます！

2004年4月

法学部同窓会会長 羽賀 孝
 法学部同窓会事務局長 濱川 登
 同 顧問（法学部長） 吉村 良一

法学部卒業生の皆さん！

法学部同窓会は、2000年9月に行なわれた立命館大学法学部創立百周年を契機に誕生しました。

立命館大学法学部同窓会は、「立命館大学法学部百年の歴史の中で培われた文化を再認識するとともに、第二世紀目の百年に向けて、私たちの新たな役割・立場を見出すべく、法学部校友のより広い多様な人々との社会的なネットワークを発展させ、相互の交流、支援を活発にし、独自の新文化を創造する」と規約に謳っております。私たちは本会を通じて立命館大学法学部の同窓生として、相互親睦を図るのみならず、文化的向上をも切に願っております。

ご承知のように、司法制度改革のもとで、本学でも2004年4月に法科大学院が全学の支援を受けて開設されました。このような状況の中で、2003年6月にはじめて東京で法学部卒業生の集いを240名余で成功させることができました。

法学部の同窓生は、4万7千人余を数え、法曹会はもとより、政官界、経済界、学術文化界など社会のあらゆる分野で活躍され、頼もしい限りです。

毎年多数の新たな卒業生とともに、新たな法学部同窓会を創造すべく、是非一人でも多くの方に入会（会費納入）を切望する次第です。その会員ネットワークの活力をもとに益々盛んな活動を展開して行きたいと願っています。

本会が21世紀にも雄々しく羽ばたくよう、卒業生のみなさんのご理解とご協力を切にお願いいたします。

なお、既会員の皆様には個人別に会費納入状況を案内し、会費納入をお願いしたいところではございますが、なにぶん事務局の力がそこまで及びません。お問い合わせには応えられるようにしていますので、気軽にお尋ねください。随時納入載いたものについては、年数を積算して記録させて戴きます。寄付を含めて納入いただく場合は、その旨を振込み用紙の通信欄にご記入ください。

本会の会費は、単年度会費 2,000円 5年間会費 9,500円
 10年間会費18,000円となっています。

〈本会は会費納入をもって、正会員となります〉

◎同窓会加入会費は、払込用紙に金額・氏名・卒業年月・住所等記入し、お近くの郵便局からお振込み下さい。（口座：00990-0-160606 名義：立命館大学法学部同窓会）

◎法学部同窓会事務局宛・Eメール：

law-alum@st.ritsumei.ac.jp

校友会からのお知らせ(校友会ホームページより)

第50回「不戦の集い」に「わだつみ像建立50年に集まろう会」が開催される!!

2003年12月9日

「滝川事件70年」「学徒出陣60年」という歴史的な年の12月8日、第50回を迎える「不戦の集い」が衣笠キャンパスに隣接する国際平和ミュージアムの「火の鳥」の壁画に包まれた「わだつみ像」を前に行われた。50年前、1953年12月8日、比叡嵐の吹きすさぶ曇天の広小路キャンパスに2千人の学生・市民を前に行われた「わだつみ像」の序幕式。故末川名譽総長らの「像とともに未来を守れ」の声にこたえ、学生代表故三輪桂三さんが読み上げた「不戦の誓い」。この前日には、わだつみ像歓迎大会・学園復興会議文化祭に参加すべく京都大学から広小路キャンパスへ移動していた学生約120名が荒神橋上で警官隊の力づくの阻止に会い、欄干が壊れて十数人が河原に転落、重軽傷を負うといういわゆる「荒神橋事件」が起きている。単独講和と日米安保条約締結、破防法施行、警察予備隊発足、朝鮮半島での戦火が収まりつつも東西の厳しい対立といった国内外の緊張情勢の下で起こった出来事であった。母校立命館ではその翌年以來毎年欠かさず像の前で「不戦の集い」を実施してきた。「不戦の集い」では、実行委員長長谷川幹さん(文学部4回生)が「過去は私達に『一人ひとりの不断の努力によって平和を守れる』と言っている」と訴え、長田豊臣総長は、「世界の平和に貢献出来る学園創造を進めたい」とご挨拶。三輪道子さん(故三輪桂三氏奥様)は、「像に込められた願いを、未来に生きる若者たち

に引き継いでもらいたい」と伝えた。

また今回、「不戦の集い」にあわせて、大南正瑛、逸見英夫、畑中和夫、高橋寛治各氏の呼びかけで「わだつみ像建立50年に集まろう会」(事務局:吉田幸彦、星宮昭生、三輪道子各氏)が開催され、当時の仲間約80名が集い、「不戦の集い」に参加した後、国際平和ミュージアム、末川記念会館、旧広小路キャンパス、清輝楼跡(立命館草創の地)、荒神橋、旧市警本部、を見学し、衣笠キャンパスで懇親会を開催した。

12月9日、日本国政府はイラクへの自衛隊派遣を決定し発表した。憲法と教育基本法に基づく「平和と民主主義」を教学理念とする立命館に学んだ私達は、過去から何を学び、未来に向けどのような選択をすべきなのか。不戦のために何をなすべきなのか。「不戦の集い」では、約270名の参加者を前に次のような詩が紹介された。

死んだ人々は、還ってこない以上、
生き残った人々は、何が判ればいい?
死んだ人々には、なげく術もない以上、
生き残った人々は、誰のことを、何を、嘆いたらいい?
死んだ人々は、もはや黙ってはいられぬ以上、
生き残った人々は沈黙を守るべきなのか?

(フランスの詩人ジャン・ダルシュ)



法学部生香山麻央さんが、8/29(金)ゴルフ部史上初の全日本タイトルを獲得!!

2003年9月11日

8月29日(金)に茨城県セントラルゴルフクラブ東コース(パー72)で行われたゴルフの日本女子学生選手権で体育会ゴルフ部の香山麻央さん(法学部2回生)が、通算6オーバー、222で2位に1打差をつけて初優勝。ゴルフ部史上初の

全日本タイトルを手に入れました。

香山さんは、関西学生選手権(個人女子)で2連覇中。昨年の日米対抗女子でも個人で2位に入るなど活躍が続いており、校友会からも奨学金(副会長賞)を支給して応援しています。

キャンパスは今、最後の (!?) 建設ラッシュ!!

2004年2月28日

衣笠キャンパスから南、妙心寺方面を見るとかつてのテニスコートには、新しい大教室棟「敬学館」が竣工間近。氷室の国際関係学部発足時の校舎、京都市都市景観賞を受賞した西園寺記念館は法科大学院棟へとお色直し中。さらに BKC

では、情報理工学部棟「クリエーションコア」が完成寸前と各キャンパスは今、再び空前の建設ラッシュ。広々とした衣笠キャンパス西側広場では、半地下式の食堂を建設して全体を再整備するために藤棚が移動され、真新しい敷石の西半分が掘り返されようとしています。

第34回 NHK 上方漫才コンテストで浅越ゴエさんのザ・プラン9が優秀賞!!

2004年3月12日

第34回 NHK 上方漫才コンテスト決勝が、NHK 大阪放送局で3月12日（金）午後7時15分から、公開生放送で行われました。多くの若手漫才師達のなかから予選を勝ち抜いた9組で争われ、浅越ゴエ（浅越浩士：'96年法学部卒）さんらのザ・プラン9が優秀賞に選ばれました。惜しくも最優秀賞は逃したものの今後の活躍がますます期待されます。

浅越さんは、立命館大学在学中に宅地建物取引主任者資格を取得し、卒業後は一時某大手不動産会社に就職するなど、

異色の経歴の持ち主で、現在は学生時代に取り組んだ演劇の経験を活かし、芝居やコントにも精力的に取り組んでおられます。

校友の皆さん、浅越さんにご注目ください!!

《出演中テレビ番組》

日本テレビ「エンタの神様」毎週土曜日22時～

よみうりテレビ「お笑いネットワーク」

よみうりテレビ「笑いの超新星」 ほか

第5回法学部大久保会が開催されました!!

2003年12月1日

法学部大久保史郎教授（憲法）のゼミ同窓会が、11月29日（土）、衣笠キャンパス末川記念会館内の陪審法廷で開催された。大久保教授は1974年立命館大学法学部に赴任されて以来、18期・394名のゼミ生を輩出されている。今年は前回の開催から10年、先生の在職30年という節目の年にもあたり、約100名のゼミ生が集まった。

第一部では大久保教授の講演会。「日本国憲法の現在、立命館大学の現在、そして私の現在」と題して、特に最近のイラク戦争・自衛隊派遣問題など、大きく変動する憲法をめぐる状況について、「この混沌とした時代をどう読み解いたらよいか」という視点から、教授の最近の研究テーマを含めて話していただいた。また来年度開設され、ご自身も移籍される立命館大学法科大学院についても紹介された。

第二部は懇親会。雨の降るなか、大きく変貌した衣笠キャンパス見学を終え、会場のハウス「ヨーク」へ。現役生たちが準備した30年の大久保ゼミの歴史を物語る写真の展示、各期の思い出紹介などが行われた。最後に奥様からのスピーチと花束の贈呈で会は大盛況、五年後の再会を約束して散会した。



2004年度の法学部・大学の行事日程

月日曜	学部・大学院・大学行事ほか
4月1日(木)	入学式(大阪ドーム)
4月6日(火)	前期セメスター授業開始
4月17日(日)	立命館法曹会の集い(西園寺記念会館)
5月19日(水)	本学創立記念日(授業日)
5月25日(火)	法学研究科学内進学試験日
6月12日(土)	第5回法学部同窓会総会・懇親会
6月中旬	法学会総会・春季学術講演会
6月27日(日)	大学入試センター法科大学院適正試験
7月22日(木)	前期セメスター試験開始～31日(土)
8月1日(日)	夏期休暇開始～9月25日(土)
9月23日(木)	秋分の日・前期卒業式

月日曜	学部・大学院・大学行事ほか
9月27日(月)	後期セメスター授業開始
10月中旬	法学会園遊会
10月30日(土)	全国校友大会(グランヴィア京都)
11月中旬	学園祭、秋季全国父母教育懇談会 法学会秋季学術講演会
12月8日(水)	不戦の集い(国際平和ミュージアムわだつみ像前)
12月26日(日)	冬期休暇開始～1月5日(水)
1月6日(木)	後期セメスター授業再開
1月22日(土)	後期セメスター試験開始～2月1日(火)
3月21日(月)	卒業式(衣笠第一体育館) BKCは20日(日)